



NEWS

2012 No.250

1月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

平成24年 理事長年頭所感

原点に帰り「お客様第一」に努めます！ 消費者の節約志向拡大がチャンス リサイクル部品で在庫の促進をお手伝いします



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 長谷川利彦

明けましておめでとうございます。

昨年10月に福岡で開催したNGP日本自動車リサイクル事業協同組合の第7回通常総会で理事長に選任され、大橋岳彦よりバトンを引き継いだ長谷川利彦です。平成24年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は東日本大震災をはじめ、大型台風の襲来など多くの自然災害が発生し、さらに震災にともなう福島原発事故が追い打ちをかけ、日本の各地に深刻な爪痕を残した1年でありました。復興への取り組みは続けられている最中ですが、東日本大震災の被災車両回収業務ではNGP協同組合を始め自動車リサイクル業界の各団体が一致協力して取り組み、絆を感じる事ができた場面もありました。

こうした中でNGP事業協同組合は、「西日本グッドパーツ」として発足して以来25周年を迎え、昨年10月28日に発足の地である九州で通常総会と併せて記念式典を実施することができました。ここまで成長できたのも取引先の皆様の御厚情とご指導の賜物と思い、感謝しております。

ところで日本経済に目を転じると景気回復の糸口が見えず、厳しい状況が続いています。とりわけ自動車産業は、東日本大震災の影響でサプライチェーンが寸断されて新車供給が間に合わず、一時回復したもののタイの大洪水で部品供給が滞りました。その結果、昨年の新車販売は登録車が前年比16.7%減の269万台、軽自動車は同11.9%減の152万台にとどまりました。

こうした新車販売の低迷に伴う影響が自動車産業の隅々にまで広がっています。「2011年の販売台数にプラス100万台」とは言わないまでも、昨年12月末にスタートして来年1月まで続く「エコカー補助金」が市場を刺激し、景気浮揚につながってほしいものだと思いがかかるところです。

海外、国内ともに厳しい経済環境にありますが、消費者に節約志向が強く意識されだしたことは、自動車整備業界の皆さまにも、私たち自動車リサイクル部品業界にとっても、一抹の光明になってくれるものと思えます。昨年3月末の時点で初度登録から10年を超える車両が、登録乗用車の3割を超えました。長期間使用されている自動車が増えているということで故障機会が多くなれば、修理需要も多くなると見られます。整備業界の皆様に頼りにするお客様が増えていることを意味するのではないのでしょうか。

昨年、NGP協同組合の理事長に就任したとき、「NGPプロフェッショナリズム」を磨き続けることを組合員に呼びかけました。NGPの基本は「お客様第一」「よりよい商品をより正確により早く」「補修部品業界のリーダーたること」の三大信条にあります。この原点に立ち返り、整備業界の皆様をサポートし、喜ばれるリサイクル部品の提供

に努めてまいります。同時に時代に適した「お客様第一」のサービスは何なのかを考えてこれまでの業務の見直し、変えるべきところは変えて、新たな時代が求める充実したサービスを提供したいと考えます。

目下、リサイクル部品業界として頭の痛い問題は、原油価格の高騰などを背景にした物流費の上昇です。梱包材のダンボールについても価格が引き上げられる見通しです。リサイクル部品の利用拡大のためにNGP協同組合内で知恵を絞り、同業者に呼び掛けるなども行って物流コストの引き下げに努めていきたいと考えております。

同時にリサイクル部品生産、販売にかかわる日常業務についても組合員各社が見直しを進め、作業の効率化に努めてまいり所存です。これらを通じて品質の高い商品を使いやすい手ごろな価格で提供してまいります。さらにエンドユーザーに向かってリサイクル部品のPRに努め、取引がある整備工場の皆様にリサイクル部品を使った修理を希望するお客様の在庫促進をお手伝いしたいと考えている次第です。

車両の仕入れ価格の上昇もリサイクル部品業界にとって頭が痛い話です。私たちが業務改善努力をしても、努力が製品価格に反映されないこととなります。こうした点もご理解をいただき、使用済自動車の処理についてNGP協同組合の組合員にお任せいただければ幸いです。

私たちNGP協同組合一同原点に戻り、よりよいサービス、よりよい商品の提供に努めてまいります。引き続き関係各位のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

東京モーターショーとエコプロダクツが同一会場で連続開催

自動車はEV化で「スマートモビリティ」に変身 未来の姿を相次ぎ提示

第42回東京モーターショー2011と国内最大の環境展、エコプロダクツ2011が東京都江東区の東京ビッグサイトを会場に連続開催されました。モーターショーの会期は12月2日(金)から11日(日)までの10日間。エコプロダクツは15日(木)～17日(土)までの3日間です。

自動車と環境、どちらのショーも同じテーマの展示がありました。モーターショーでは「スマートモビリティシティ2011」との特別展示が行われ、その展示の主要コンセプトがエコプロダクツでは出展していた自動車メーカーや家電メーカーの展示ブースに分かれて展示されていました。

それらのコンセプトをまとめると、将来的に自動車は電気自動車(EV)が主体になり、風力発電や太陽光発電で生み出された電力を蓄えて走行するようになる、とのこと。気象条件に影響を受ける自然エネルギーはスマートグリッド(次世代配電網)でコントロールされ、一般的な発電所が供給する電力などと組み合わせて安定化されています。この中でEVは、搭載したバッテリーに電力を蓄える機能が期待されており、家庭で使用する電力が不足するケースではEVから給電を受けることも考えられています。商業施設でも配達車両などの商用車をEVにして電池機能をプラス、家庭用コンセプトの規模を大きくし

た形で次世代のモビリティとして紹介されていました。

その一方で、バッテリー能力の限界から完全なEV化は将来的とされ、EVと現在の内燃機関の自動車をつなぐものとして提案されているのが、「プラグインハイブリッド」(PHV)車です。

トヨタ自動車は発売を始める「プリウスプラグインハイブリッド」をふたつのイベントを通じて展示していました。1回の充電で26.4kmのEV走行ができます。「これしかEV走行ができないのか」と思うかもしれませんが、実際、マイカーとして使っている自動車が出た時、1回につきどのくらい走るのかを調べてみると、ほとんどが30km以下となるそうです。買い物などの日常使用はEVで、お父さんがゴルフなどに行くために長距離を走らなければならないときは通常のハイブリッド車と、1台で2役の車両となり、環境に優しく、それでいて長距離も不安なく走れる自動車がPHVということになります。

しかし、EVが活躍するようになるには、モーターに使われるレアアース、電池用のリチウムなどのレアメタルの確保も大事なことです。エコプロダクツでは、単に自動車と



東京モーターショーでもエコプロダクツでも登場したプリウスプラグインハイブリッド

いう視点だけでなく、資源確保を目的にリサイクルを進めることを訴えた展示も行われていました。

また、モーターショーには出展できない企業の展示もありました。富士通のブースに置かれた電池の代わりにキャパシタを積んだ1人乗りのEVが代表例。1回の充電で走行できる距離はわずかに5km(キャパシタ8個搭載時)、充電時間は三相交流200V電源でわずか1分、通常家庭用電源でも20分でフル充電できるそうです。EVの走行距離が短いことを逆手にとって、「ちょい乗り」専用が開発されたEVです。現行車の価格は1台600万円、その半額の300万円のモデルが近く発売される予定だと会場で聞きました。キャパシタの価格が下がらないため、簡単に手が届くということにならないようです。



秋田県のブースではレアメタル、レアアースのリサイクルをPR。県はレアメタルリサイクル特区の準備を進めている



モーターショーでもEVを積極的に展示した日産自動車、エコプロダクツでは子供たちを対象にEVの重要性を訴えた



キャパシタで走るEV。充電1回当たりの走行距離は5kmと短いですが200Vなら1分という短時間で満充電が可能になる

NGP 今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果



NGP 平成23年11月: **6,620 t**

NGP 1月からの累計: **72,342 t** (全12団体 1月からの累計 **129,402 t**)

※ NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果



NGP 平成23年11月: **20.3 t**

NGP 1月からの累計: **169.9 t**

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果はNGP協同組合独自のCO2排出削減の取り組みです。ダンボールに変えて、専用梱包材を200回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。

※リターナブル梱包材は、ドア・フェンダー用に加えて2011年2月よりバンパー用の運用を開始しました。

国内最大の環境展「エコプロダクツ」に年連続6回目の出展

義援金募集で集めた各車エンブレムは完売

NGP協同組合は12月15～17日に東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた「エコプロダクツ2011」に出展しました。NGP協同組合はエコプロダクツへ6年連続で単独出展し、自動車リサイクルの仕組みとリサイクル部品利用の促進を呼びかけてきました。

今回の出店ではブースのコンセプトを大きく変更しました。青い地球をイメージしたドームを作り、その前面に組合員のエコブリッジ（青森県八戸市）で製作したコンバート電気自動車（EV）やリユース部品、リビル

ト部品を配置しました。ドームの中ではプロのナレーターに依頼して紙芝居を行い、自動車リサイクルがどのように行われているかをわかりやすく説明しました。

NGP25周年を記念して「きれいな地球に残しておきたい自然や生き物」をテーマに小学生から募集した絵画を展示しました。入選作品25点で製作したタペストリーをブース内に、残りの応募作品をカラーコピーしてブースの背面に壁画として展示しました。作品を寄せていただいた小学生にエコプロダクツでの展示を案内したところ、何組かの親

子がNGPのブースを訪ねてきてくれました。

また東日本大震災後に他の自動車リサイクル事業者団体とともにボランティアで取り組んだ被災車両の引き上げ業務についても報告し、併せて義援金の募金を行いました。自動車に取り付けられていた自動車メーカー、車名のエンブレムを組合員が持ち寄り、義援金をいただいた方にお好きなものをプレゼントしましたが、盛況で2日間でほぼなくなってしまいました。集まった義援金につきましてはNGP協同組合が責任を持って復興の取り組みを続けている被災地にお届けいたします。



青い地球をイメージしたドームでブースを一新



ドーム内ではプロのナレーターに頼んでしっかりと自動車リサイクルをPR



NGP25周年の記念事業に応募いただいた小学生の協力ですてきな壁画ができた

エコテクノがバッテリー再生事業をスタート

中国4県をカバーする“リコンディショニング”拠点

広島県のNGP組合員、エコテクノ（砂原正則社長、広島市安佐南区）が、バッテリーの再生拠点を広島市内に開設しました。バッテリーバンクシステムズ（岡田勝男社長、愛知県小牧市）と契約してバッテリー再生機器とノウハウ提供を受け、自動車用から電動フォークリフト、非常用電源などの産業用バッテリー再生までを手がける事業拠点で11月26日からサービスを始めています。

組合員の中には自動車用バッテリーを再生し、リサイクルバッテリーとして販売した

り、サービス提供したりしていますが、エコテクノが実施している事業は電動フォークリフト用などの複数の電池を組み合わせた大型バッテリーまでを再生する本格的なものです。バッテリーバンクシステムズの「再生バッテリー中国地区サテライトセンター」として機能し、広島、山口、鳥取、島根の中国4県を担当エリアにサービス提供します。

バッテリーの取り扱いは、これまでは使い捨て感覚で消耗すると新品と交換してきました。しかし電圧などを測定しながらしっか

りした再充電を行いメンテナンスすることで、消耗したバッテリーがリフレッシュし、寿命そのものを延ばすことができます。こうしたバッテリーのメンテナンスについてバッテリーバンクシステムズでは「リコンディショニング」と呼んでいます。複数の電池を組み合わせた大型電池になればなるほど、リコンディショニングを実施し、長く使うことが経済的です。

将来的に電気自動車が普及した時、当然、電気自動車のバッテリーについてもこのサービスが必要になります。

エコテクノは、取り組み始めた新事業を新たな事業部門として育成することをめざしています。このため、本社機能を北広島町の事業拠点から同事業所に移して中国4県をカバーする態勢を整備しました。また市内に拠点を設けたことでエンドユーザーとの接点を強化することにしており、バッテリーの再生事業とともに中古タイヤの販売などにも取り組んでいます。



再生バッテリーサテライトセンターとして中国4県をカバー



本格的な再生装置を導入してラインを構築した

第21回基礎研修会を実施

寒風の中で厳しい研修、新たなNGPマン109名が巣立つ



翌日の試験の前に最終確認、緊張の瞬間



団体試験で最後に合格した1班、励ましてくれた仲間へ返礼



NGPマンとしての自覚を新たにして決意表明

12月13～16日の4日間、NGP協同組合の第21回基礎研修会が、東京・夢の島にあるBumB東京スポーツ文化館で開催されました。基礎研修会は例年4月に実施してきましたが、東日本大震災の影響で施設が利用できなくなり、暮れの押し迫った時期にずれ込みました。冷たい雨、寒風という厳しい気象条件下で団体訓練が行われましたが、熱気で跳ね返し、基礎研修会3日目の夕食前に全7班全てが試験に合格、109名の新たなNGPマンが誕生しました。修了式で長谷川利彦理事長から「会社に戻って、それぞれの業務で頑張ってください」と声を掛けられていました。

修了式直前のリハーサルで全員気が緩

み、岩井悟朗教育委員長が「これでは研修をした意味がない」と一喝。多くの参加者がこの場面を心に刻み、会社へ帰ってからの行動を意識しました。カーパーツコンドウの伊藤良平さんは「怒られ続け、自分から何かしないと変わらないことに気づきました。自分の考え、気持ちを伝え、行動することに班も応えてくれました。何もなかった自分が少し成長できました」。金沢ヨコイ部品の中森美緒さんは「今回の基礎研修会で忘れていたものを取り戻せました。それは諦めないで頑張れば何でも達成できるということ、仲間を信じ一つになるということ、思ったことを人に伝えることの大切さです」など人それぞれに心に刻むこと

がありました。多田自動車商会の橋本誠さんは「NGP三大信条、NGPマン心得5ヶ条の本当の意味を勉強しました。口先だけで覚えていたことが理解でき、基本が大事なことが心に染みしました」と真のNGPマンに一歩近づきました。

そして「全力で仕事をし、会社内や全国のNGPグループの人たちに自分はNGPマンと認められるよう日々限界のハードルを上げて行きたい」（大友自動車工業、大友正人さん）、「何事にも最後まで諦めず積極的に行動することで自分自身をもっと向上、成長させて会社に貢献できる人間になります」（茨城オートパーツセンター、園部良貴さん）などと決意を新たにしました。

あいおいニッセイ同和のパートナーズセミナーを支援 ブース展示などでNGPをPR

NGP協同組合は11月22日に名古屋で開かれたあいおいニッセイ同和損害保険主催の「パートナーズセミナー」に協力・支援し、自動車リサイクルに関する講演やリサイクル部品の展示を行いました。セミナーは「あいおいニッセイ同和」となって創業1周年を迎えたことを記念し実施されたものです。中部地区のセミナーでは「地球環境保護」をテーマに取り上げ、セミナー内容の節々に自動車リサイクルが取り上げられたことでNGP協同組合として支援、協力することになりました。

セミナーには東海支部の山下禮市理事をはじめ駒屋吉明コマゼン代表取締役、竹内俊之ジーパーツ代表取締役、永川博之ワープ代表取締役らの東海支部組合員が出席、本部からは玉木基裕専務理事が駆けつけました。講演で玉木専務が自動車の適正処理に真摯に取り組んでいるNGPの活動

をPRしました。会場の外に設けられた展示コーナーでは自動車リサイクル部品を展示し、リサイクル部品の利用がCO₂排出削減につながることで、そしてNGP協同組合が使用済自動車の適正処理とともに高品質のリユース部品を作りだし、修理工場の皆さんに提供し続けていることを訴えました。



整備業者多数参加したあいおいニッセイ同和のパートナーズセミナー



エコブースの展示に協力リサイクル部品をPR

訃報

12月8日、有限会社名古屋解体メカイパーツ（名古屋市守山区）新井博貴代表取締役のご母堂、新井八重子（あらい・やえこ）様のご逝去されました。享年91歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1208 FAX: 03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL: 03-5475-1200 FAX: 03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp